

第1部

診療所版J-SIPHE「OASCIS」に関するご案内

国立健康危機管理研究機構 国立国際医療センター
AMR臨床リファレンスセンター 臨床疫学室
診療所版J-SIPHE「OASCIS」事務局
2025年11月26日

診療所・地域の抗菌薬適正使用支援システム

診療所版 J-SIPHE 「OAScIS」〈オアシス〉

事務局からのご案内

国立国際医療センター AMR臨床リファレンスセンター

はじめに — 今日お伝えしたいこと

- OASCISは、診療所を中心とした抗菌薬適正使用の推進を目的に、地域でのデータ共有を支える仕組みです。
- 地域での導入を進めるうえでは、加算I病院の先生方によるご案内や働きかけが大きな役割を果たします。
- 本日は、診療所にOASCISをお勧めいただく際に「どのような点を、どのように伝えるとよいか」という視点で、ポイントを整理してご紹介します。

本日の内容（目次）

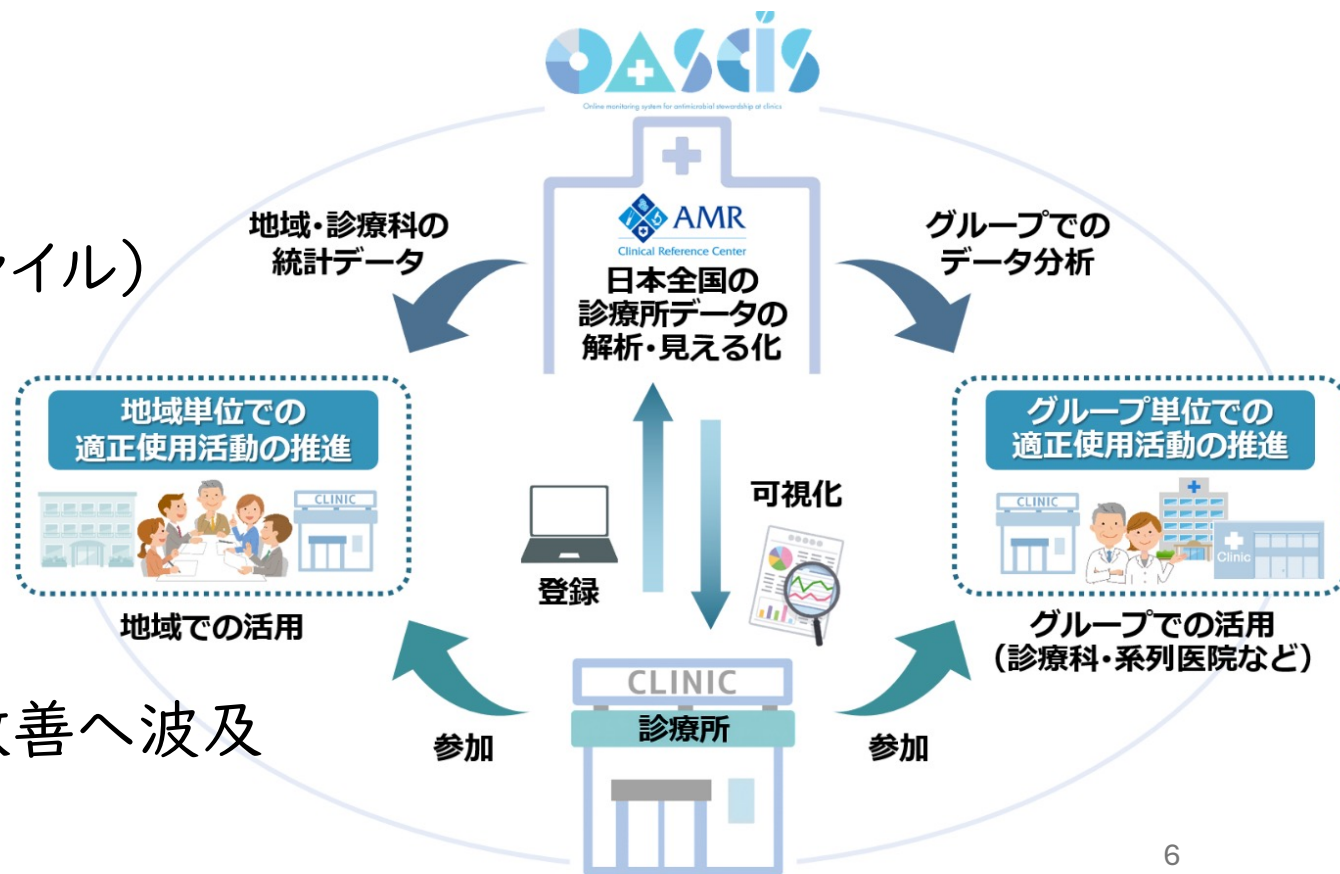
1. 診療所版J-SIPHE システムの概要
2. 診療所が感じるハードル
3. 病院から診療所へ伝えていただきたいポイント
4. まとめ

1. 診療所版J-SIPHE システムの概要

①OASCISの仕組みと全体像

OASCIS (診療所版J-SIPHE) は、診療所の抗菌薬処方データを解析・可視化し、地域全体で抗菌薬適正使用を推進する仕組みです。

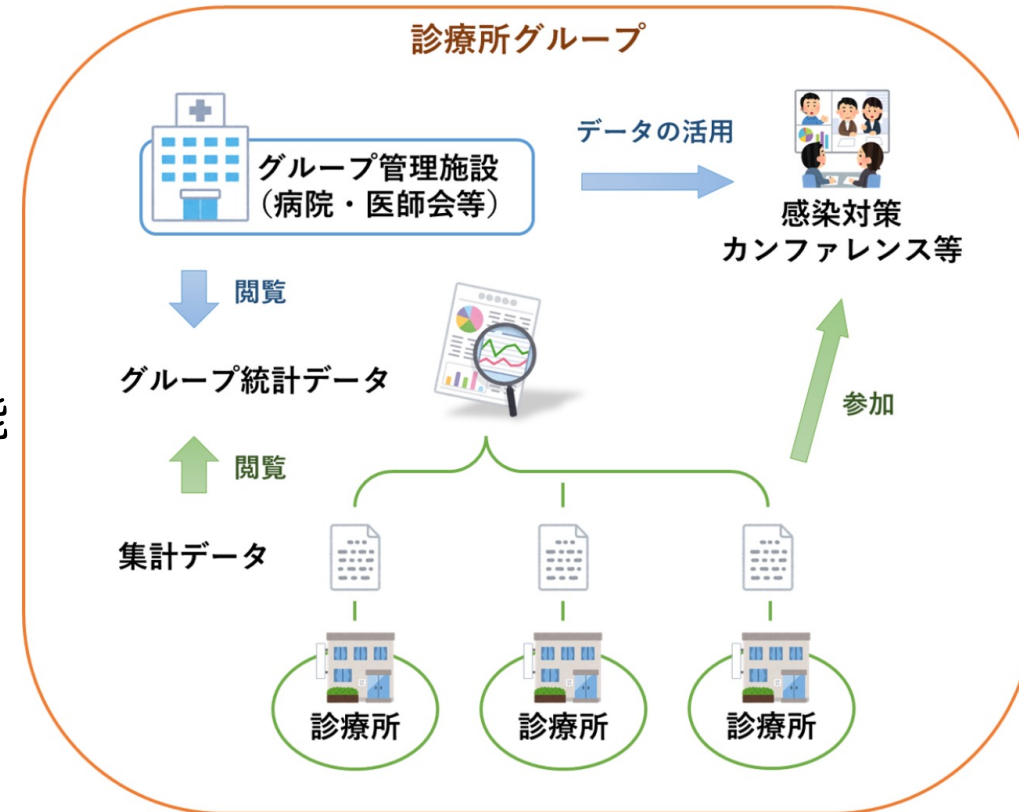
- 各診療所では、レセプトデータ (UKEファイル) をもとに登録
- 登録データは集計・可視化
- 自院・診療科・地域・グループ単位で比較が可能
- データ活用により、診療所単位の取り組みが地域全体の改善へ波及



②地域連携への活用

病院や医師会もグループ管理施設として参加でき、診療所とともに地域単位でデータを活用できます。

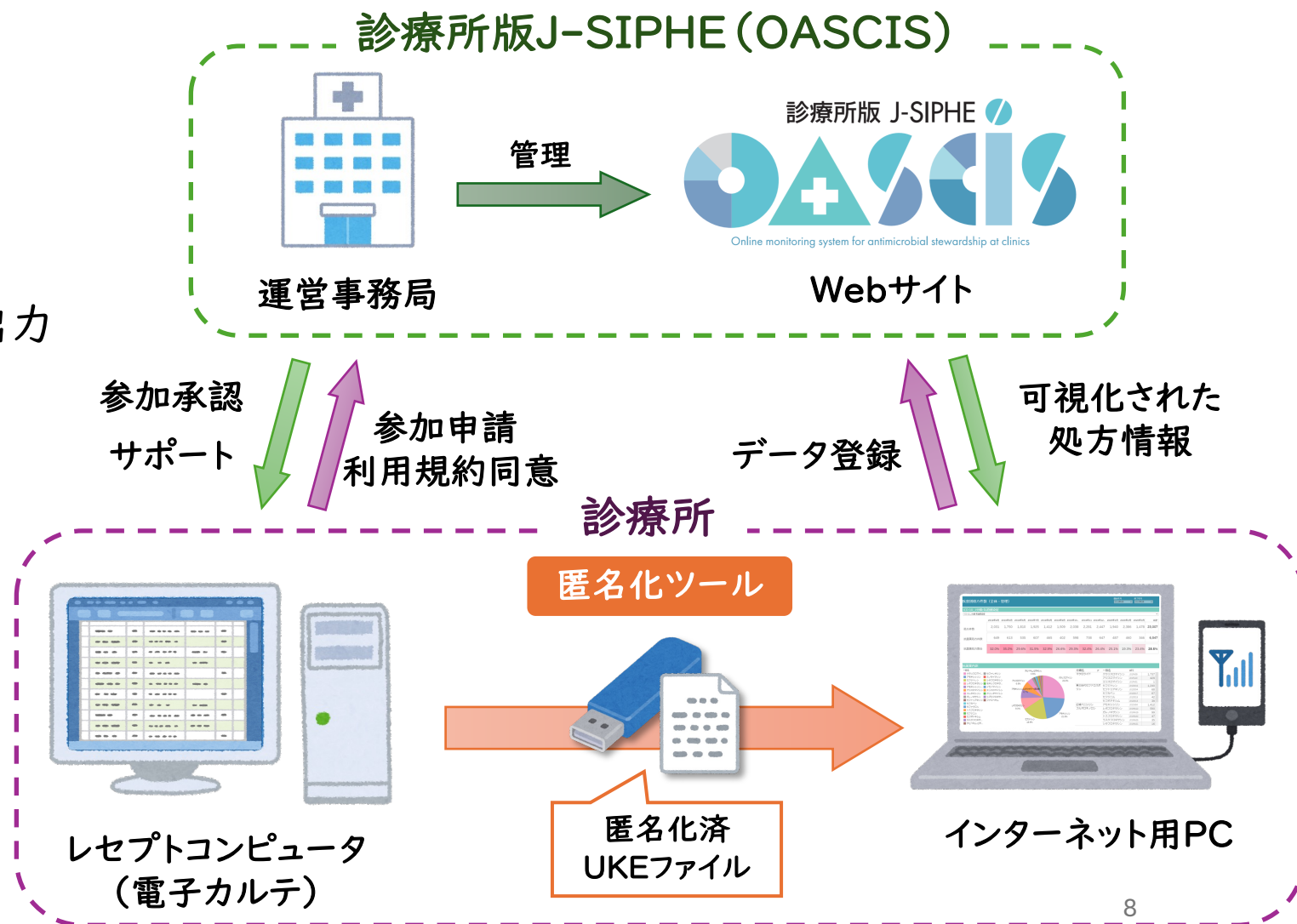
- 診療所グループを作成し、地域内でデータを共有・比較
- グループ統計データが自動で算出・可視化
- 感染対策カンファレンスなどで地域全体の処方傾向を確認可能
- 加算1病院が中心となり、診療所の参加を後押し



③診療所でのデータ登録イメージ

OASCISでは、
診療所内で匿名化処理を行うため、
安全にデータ登録が可能です。

- レセプトコンピュータからUKEファイルを出力
- 専用の匿名化ツールで個人情報を削除
- 匿名化済みファイルを
OASCISサイトにアップロード
- アップロード後、
自院データの可視化結果を確認可能



全体データ:全施設の総計



自施設データ:各施設の状況



統計データ:自施設と他施設の比較など



微生物・耐性菌関連情報:JANISデータの連携



2. 診療所が感じるハードル

ー 導入時につまずきやすいポイント

診療所では、導入初期に以下のような不安や疑問の声をいただくことがあります

※2025年度日本環境感染学会J-SIPHE・OASCIS展示ブースにていただいた意見をもとに作成

- **業務負担への懸念：**
 - データ登録に時間がかかるのではないかとという印象
- **プライバシー・情報管理への不安：**
 - 個人情報や診療内容が外部に漏れるのではないかとという誤解
- **導入メリットの不明瞭さ：**
 - 自院にどんな利点があるのか実感しづらい
- **操作・環境面の不安：**
 - ファイル作成やアップロード手順への抵抗感

3.病院から診療所へ伝えていただきたいポイント

— 導入を後押しする3つの視点

診療所が安心して導入・継続できるように、 次の3点を中心にお伝えください。

- 登録作業の実際を具体的に伝える
 - 「匿名化処理を行ったファイルが送信される」
「OASCISへのデータ登録は短時間で完了する」といった情報が有効です。
※レセプトファイルの作成時間についてはメーカーによります
- 自院のメリットを明確にする
 - OASCISでは、自院の抗菌薬処方傾向をグラフで把握でき、
診療改善や患者説明にも活用できます。
- “地域での取り組み”として位置づける
 - グループ全体の傾向を共有することで、
診療所の参加が地域全体の感染対策につながる意義を伝えます。

4.まとめ

— 地域全体で抗菌薬適正使用を推進するために

地域でつくる抗菌薬適正使用 加算Ⅰ病院の一步が参加拡大の力になります

- OASCISは、診療所が自院の処方傾向を客観的に把握し、地域全体で抗菌薬使用の現状を共有できる仕組みです。
- 加算Ⅰ病院や医師会など、地域の中核となる施設が声をかけ、導入を後押しすることが、参加拡大の鍵となります。
- 参加が広がることで、地域ごとの実態が見える化され、抗菌薬適正使用の課題を共有し、改善策を検討する基盤が形成されます。
- 病院・診療所・事務局がそれぞれの立場から協働し、持続可能なAMR対策を地域で進めていきましょう。

OASCIS紹介用チラシが、 今後公式ホームページでダウンロード可能となります。

イメージ図

- OASCISの概要、導入手順、ダッシュボード例を掲載
- 診療所へのご案内や、カンファレンス時の説明資料として活用可能
- PDF形式で提供予定（印刷・配布可）



診療所版 J-SIPHE 「OASCIS (オアシス)」は、AMR臨床リファレンスセンターが主体となり、診療所の薬剤耐性対策に活用できるシステムです。抗菌薬の使用状況をはじめとした、様々な抗菌薬処方データを診療所に無償で提供します。日々の診療にぜひご活用ください。

Q. OASCISで、何ができるの？

A. 診療所における抗菌薬の使用状況（処方件数、処方率、処方した抗菌薬の種類）をグラフや表で確認できます。

その他にも

- ・経時的な変化（月ごとの推移、前年同月との比較）を確認
- ・地域や診療科別のデータと比較
- ・任意のグループ内の分析・活用などが可能です

Q. 病院や医師会に参加できる？

A. 地域で感染対策に関するカンファレンスを開催される病院や医師会等もOASCISにグループ管理施設として参加可能です。

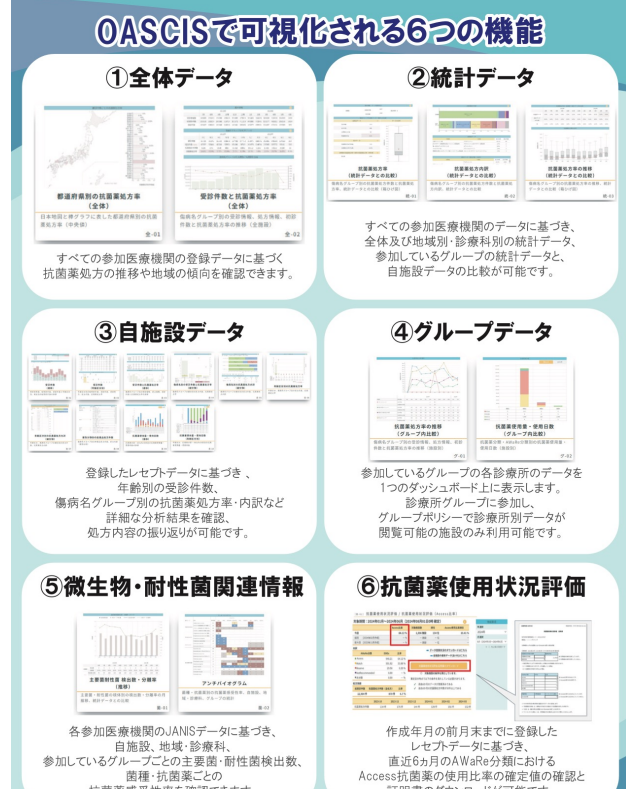
診療所グループを作成し、医療機関間や地域での連携に活用いただけます。また、グループに参加すると指標にグループ統計データが追加されます。

Q. データ入力が手間なのですか・・・

A. レセプトチェック用 UKE ファイルを活用することで、データ入力の手間が不要です。過去分のファイルも登録できます。

診療所版 J-SIPHE 「OASCIS」 サイト
<https://oascis.jihs.go.jp/>

お問い合わせフォーム
<https://oascis.jihs.go.jp/contact>



OASCISで可視化される6つの機能

①全体データ

すべての参加医療機関の登録データに基づき、抗菌薬処方率の推移や地域の傾向を確認できます。

②統計データ

すべての参加医療機関のデータに基づき、全体及び地域別・診療科別の統計データ、参加しているグループの統計データと、自施設データの比較が可能です。

③自施設データ

登録したレセプトデータに基づき、年齢別の受診件数、傷病名グループ別の抗菌薬処方率・内訳など詳細な分析結果を確認、処方内容の振り返りが可能です。

④グループデータ

参加しているグループの各診療所のデータを1つのダッシュボードに表示します。診療所グループに参加し、グループポリシーで診療所別データが閲覧可能な施設のみ利用可能です。

⑤微生物・耐性菌関連情報

各参加医療機関のJANISデータに基づき、自施設、地域・診療科、参加しているグループごとの主要菌・耐性菌検出数、菌種・抗菌薬ごとの抗菌薬感受率を確認できます。

⑥抗菌薬使用状況評価

作成年月の前月末までに登録したレセプトデータに基づき、直近6か月のAWaRe分類におけるAccess抗菌薬の使用比率の確定値の確認と証明書のダウンロードが可能です。

詳細は、チラシ表面下段に記載している診療所版 J-SIPHE 「OASCIS」 サイトより、概要説明をご覧ください
トップページ → [OASCISとは] → [マニュアル、申請等] → [OASCIS公開情報] → [診療所版 J-SIPHE 「OASCIS」 概要説明]

※ ダウンロード開始となりましたら、OASCIS公式サイトより改めてご案内いたします。

診療所版J-SIPHE「OASCIS」事業主・お問い合わせ先

・AMR臨床リファレンスセンター

（国立健康危機管理研究機構 国立国際医療センター）

Webサイト: <https://amrcrc.jihs.go.jp> ※AMR対策全般・J-SIPHE事業に関するお問い合わせ

・診療所版J-SIPHE「OASCIS」事務局

OASCISの運用および参加サポートを行っております。

ご意見・ご質問がありましたらお気軽にご連絡ください。

Webサイト: <https://oascis.jihs.go.jp>

お問い合わせ: <https://oascis.jihs.go.jp/contact>

メール: oascis-info@jihs.go.jp



Webサイト QRコード

お問い合わせは、事務局のメールアドレス、またはWebサイト内お問い合わせフォームよりお願いします。